

生活支援技術Ⅳ

担当教員 馬場 敏彰、吉岡 久美

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 利用者体験を通して、援助者としての資質向上に努めることができる。
2. 入浴介助における生活支援の技術について、具体的な方法と支援を学び、安全の確保と快適な支援について理解を深めると同時に援助場面でのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

馬場：介護福祉士として病院勤務経験・在宅支援勤務経験、介護福祉士養成校教員 他

吉岡：大学病院（看護師）、一般病院（看護師長）、訪問看護ステーション（訪問看護師・管理者）、介護福祉士養成校教員 他

※排泄・入浴介助の演習時は、吉岡先生に入ってもらいます。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)	16	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の方法)
2	一連の生活支援技術(全介助)	17	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
3	自立に向けた入浴のアセスメント	18	利用者の状態・状況に応じた介助の方法
4	ICFの視点にもとづいたアセスメント	19	利用者の状態・状況に応じた介助の演習
5	爽快感・安楽を支える入浴介護の意義	20	利用者の状態・状況に応じた介助のまとめ
6	爽快感・安楽を支える介護の工夫	21	一連の生活支援技術(見守り 一部介助)
7	清潔保持の介助の技法(入浴介護の留意点)	22	一連の生活支援技術(全介助)
8	清潔保持の介助の技法(入浴介護の方法)	23	健康状態確認技法
9	清潔保持の介助(シャワー浴介護の留意点)	24	状態状況別生活支援技術(視覚障害)
10	清潔保持の介助(シャワー浴介護の方法)	25	状態状況別生活支援技術(聴覚・言語障害)
11	清潔保持の介助の技法(清拭介護の留意点)	26	状態状況別生活支援技術(グループ演習)
12	清潔保持の介助の技法(清拭介護の方法)	27	状態状況別支援技術 運動機能障害の理解
13	清潔保持の介助(部分浴介護の留意点)	28	状態状況別生活支援技術(発達障害)
14	清潔保持の介助の技法(部分浴介護の方法)	29	状態状況別支援技術 運動器疾患による障害
15	清潔保持の介助の技法(洗髪介護の留意点)	30	状態状況別支援技術 脳血管障害・神経疾患

【履修上の注意事項】

演習では、決められた服装等を準備すること。

事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。(30分)

事後学習として、講義演習中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。(30分)

【評価方法】

期末試験60%、実技試験20%、課題提出10% 講義における積極性10%

【テキスト】

『生活支援技術Ⅱ』中央法規 最新版

【参考文献】

適宜提示する。